



三条北ロータリークラブ週報

自分を越えた眼を

Look Beyond Yourself

国際ロータリー会長 ラジェンドラ.K. サブー 第2560地区ガバナー 橋本 力

例会日

1992. 3. 17

累計 No 261

当年 No 36

会長 / 山上 茂夫

幹事 / 堀川 正幸

SAA / 味方 義一

例会日 / 火曜日 PM12:30 - 1:30

例会場 / 三条ロイヤルホテル ☎34-8111

事務局 / 三条市西四日町3-15-34
ヒューマン・ハーバー内 ☎35-7160

行 事: 卓話「今何故ボランティアか？」三条市社会福祉協議会 会長藤田説量殿

出 席: 本日の出席 54名中39名

先週の出席率 53名中48名 90.57%

先週のメイクアップ: 3月11日 三条RCへ 外山晴一君 笹原勝治君

12日 見附RCへ 石川勝行君

12日 加茂RCへ 梨木建夫君

16日 三条南RCへ 中条耕二君 佐藤啓策君

ビジター: 新潟東RCより 鍛冶 努君

村上RCより 水倉征一君

吉田RCより 山岸鐵夫君

三条RCより 渋谷正一君 小林敬典君 野村竹三郎君 渡辺喜彦君 藤田紘一君

三条南RCより 葦沢喜一郎君 舟久保孝志君 高島一男君

ゲ ス ト: 三条市社会福祉協議会 会長藤田説量殿

会長挨拶: 山上茂夫

今日は大変沢山のお客様をお迎えしております。遠く村上クラブから水倉征一さん、新潟東クラブから鍛冶努さん、吉田クラブから山岸分区代理さん、三条クラブから野村さん、渡辺さん、葦沢さん、小林さん、渋谷さん、藤田さん、三条南クラブから高島さん、船久保さん、それに今日ゲストスピーカーとしてお招きしております藤田説量先生どうも有難うございました。

この3月季は入学、卒業シーズンでもあります。今日新聞を見ましたら卒業式について書いてありました。県の教育委員会の発表では、県内高校の日の丸掲揚、君ヶ代国歌斉唱は96.1%が行なう相で、特に君ヶ代斉唱につきましては、昨年より12.4%増になったとのことでよい傾向になって来たのかなと思います。

私共戦時中に覚えさせられたのですが軍人勅諭と云うのがありました。これは前文がありまして「我が国の軍隊は代々天皇の統率し給うところにして……」から始まり、それにつき「一つ軍人は忠節を盡すを本分とすべし」にはじまり、これを5つ唱えますが「一つ軍人は武勇を尊ぶべし」ともありますがそのあとで軍人でなくとも人間として当り前の言葉もあります。例えば信義を重んずべし、礼儀を正しくすべし、ともあります。

もう一つはどう云う訳か一寸想い出せないのでお話できませんが、兎に角その様な人間としての教えもありました。

入学式では子供達がザワザワざわめいている、また中には厳粛な式もあります。卒業式でワイワイ騒いでいると云う学校もある相で、この頃は様々な卒業式が見られるシーズンでもあります。4月に入るとしっかりした入学式も多く見受けられる様に思います。

我がロータリークラブでは一足早くこのあと長谷川新会員の入会式があります。このところ年間を通じ若い会員も次々に入って参りまして、いろいろ勉強させられているところで御座居ます。

今日は大先輩でいらっしゃる藤田説量先生のお話を吟味し乍ら、我がロータリークラブもしっかりしたクラブになる様お互いに研鑽して参りたいと願うところであります。

大変簡単ではありますが御挨拶と致します。どうも有難うございました。

幹事報告：堀川幹事

◇桐生中央RCより認証状伝達式列席の礼状をいただきました。

◇新津中央RCより第39回県下ロータリークラブ親睦ゴルフ大会のご案内

日 時 6月12日（金）

会 場 新津カントリークラブ

◇燕RC例会変更

日 時 4月2月（木）12:30～

会 場 明治屋新館

日 時 4月16日（木）19:00～

会 場 巻町「渡辺鮮魚店」

吉田、分水、巻、燕RC合同観桜会

新会員紹介

氏 名 長谷川恵慈君

生年月日 昭和26年4月17日

会 社 名 長谷由工業㈱

役 職 名 常務取締役

会 社 住 所 三条市塚ノ目158 TEL 32-2189

FAX 35-1414



自宅住所 同上 TEL 32-2190

家族構成 父 由男 母 ヨシノ 妻 有子 長男 恵一 次男 淳二 長女 尚美

結婚記念日 5月29日

趣味 スキー、ゴルフ

職業分類 鉄骨加工業

スポンサー 中条耕二君 木宮 隆君

ニコニコボックス：

米山忠俊君 国際交流協会の中国研修生昨日16日に41名無事来られました。1年間研修生には有意識な日本たい在期間でありますよう心からお祈り致します。

味方義一君 長谷川恵慈君の入会を歓迎します。仲良くお願い致します。

山上茂夫君 長谷川さんご入会おめでとうございます。また藤田先生の卓話を有難く拝聴させて頂きます。

稲田憲治君 春が来た、去勢したのにこのさわぎその気になるのが玉にキズ。我が家のタマ(オスネコ)の話です。藤田先生、今日は卓話ありがとうございます。

堀川正幸君 藤田先生、山岸分区代理本日はありがとうございます。

佐藤義英君 長谷川さんの入会をかんげいします。

芦田義重君 本間委員がジット見つめたので、たぶん協力せよとの指示だと思うので、

本間建雄美君 本日の卓話楽しみに来ました。又長谷川恵慈君の入会を祝して

小林 満君 長谷川さんの入会を記念して

坂内康男君 長谷川さんの入会を記念して。

笹原勝治君 途中退席をお許し下さい。

石月雅司君 ボックスに協力して、

石川友意君 長谷川恵慈さんの入会を歓迎して、

加藤英男君 ボックスに協力して、

吉田春雄君 今日は息子の入試です。御さい銭のつもりで、ニコニコボックスに入ります。

梨木建夫君 長谷川新会員の入会を歓迎いたします。

卓 話： 「何故今ボランティアか」藤田説量様

ボランティアという言葉が盛んに使われるようになりました。本来はラテン語のボランタル、自由意志という言葉が語源だと聞いております。社会に奉仕する構造というものは、自分の意志ですること。他からの働きかけでなく、自動的な心の高ぶり、そういうものから発する行動をボランティアといいます。

終戦後の日本の福祉の考え方は、国の行政により費用を負担して福祉を考えるといういわゆる与えられた福祉という考え方の基本姿勢がありました。戦前、かつて日本の福祉は地域にお互いの交



流があり、困った人がいれば助けに行く。みなし子がいれば誰かが面倒を見る。親戚がいなければ誰かが引き取って育てる。むしろ徳川時代、明治時代には、日本はみなし子というのはなかったのではないかと考えております。これは日本の国の成り立ちから農耕文化のものの考え方、いわゆる農家という一つの同じスタイルで生活するもの同士の地域における連帯感が吸収していったのだと思います。現に、私が最近考えていることですが、戦争中の疎開の問題もまた終戦後の引揚げ者問題も、おそらく殆んどは農家が吸収したのだと思います。しか

し終戦になりまして、経済の在り方、また地域の居住者の在り方が変わってきて、同じ地域にいろいろ条件の違う人がたくさん居る。そういたしますと、かつて吸収した農耕文化の時代からの物の考え方というもので処理できなくなり、そこで国の行政でいろいろやるのが福祉だということになります。しかし本当の幸せというものは、国からお金をもらってばらまけばいいのかということ、そうではないことに気付きはじめて、今から10年程前、福祉の見直しということばが言われはじめました。家庭の中の老人問題を解決するのに病院に入るより、自分の家で、家族の見守りの中で療養することが本人にとって一番幸せではないかと思えます。そこで自宅療養、在宅福祉ということばが出てまいりました。私の母も1年3か月間家で寝たきりでした。家庭の中にいるという安定感、気持の落ち着きが病人のためには大変プラスになるようです。与えられた福祉の時代から、自分で作り上げていく福祉の時代に変わらなければ本当の福祉ではないという考え方によくなってまいりました。そこで自分の家庭だけで物事を解決できない、他から応援をしてもらわなければならないということから、手助け、援助が必要になってきて、ボランティアという考え方が出てまいりました。基本的姿勢を持たないムードボランティアという言葉も生まれました。家庭の中でま、家事をいっかげんにしておいて、しかし、ボランティアという格好のよい活動があるのでそれに参加したい。というものです。今、三条市で登録してあるボランティアが18クラブ位。登録メンバーが1400~1500人。それら全部とはいえませんが、ある程度活動しています。社会福祉協議会で、このボランティアに対して援助予算が35万円位、1クラブ2万円足らずというところ。微々たるものです。ボランティアのグループの仕事は誠に涙ぐましい仕事をしておられます。手話サークル。点字を打ち、小説などを目の見えない人に提供する。小説、新聞などを朗読してテープに入れ要望のあるところへご利用頂く朗読奉仕。本当のボランティアというものは人からお金をもらってやるものではなく、自分の意志で自分の力で、自分の生活している地域に対して奉仕をすることがボランティアの三大原則であると考えております。また日本には本来的な意味のボランティアというものが定着していないといわれます。変わり目に来ていることは確かですが、まだ一つ身につかない現状であると思えます。

ある雑誌の中で読んだのですが、80才になるおばあさんは、毎日病院で病人の車イスを押して散

歩をする手伝いをしています。80才になって自分がおしめをする状態でありながらも奉仕をすることが、自分の使命であり、生きる姿勢の基本的な一つという考えでそれをしているわけです。

人間というものは、自分の欲得のためにしか考えない生き方、これは間違いないことであり、洋の東西も問わないことだと思います。自分のためだけで生きるという視野の狭さというものに行き当たった時、初めて人のためにもしなければ自分も伸びることが出来ないという意味がだんだん理解できるのです。更には、人のためにやるのではなく、むしろ自分のためにやるのだという考え方も、よみがえってきます。大きな意味での自分のためだと思います。しかしそれをやっているうちにだんだん歴史的文化的の積み上げの中に生まれてくるものは何かというと、自分のためにでもなければ、人のためにでもない。それをやらなければ人間としての意義がない。という一つの極致を把握して、社会奉仕をやってはじめて真の意味の社会奉仕を理解することが出来るのです。

ロータリーも最初は、自己の営業の発展を考えながら、他と交流してより自分の仕事を伸ばすことが、基本的な考え方にあったような気がいたします。しかし、だんだんロータリーが大きくなると、その自己の仕事の発展と、奉仕の心が二つの和としてお互いに相乗的に働きながら自分が大きくなっていき、社会奉仕もやれるようになります。社会奉仕をやることによって、自分の視野も広がり、人格形成の軌道修正も出来るという二つの和をうまく回転させることでロータリーというものは発展してきたと考えております。

問題点として、ロータリークラブの奉仕活動は、新しく変わった会長の発想で運営され、一年毎に行なわれる事、しかし最近ポリオプラスをはじめ、何年かを重ねてやらなければ出来ない仕事が出てまいります。ですから、地域社会に対する奉仕は一年毎に、大きく国際ロータリーとして世界的に奉仕する仕事は何年かを重ねて大きな予算で、大きな力でやらなければならないという考え方に変わってきたように思います。とにかくロータリークラブは奉仕団体であるといわれておりますが、それ程奉仕団体とは思えません。親睦団体であるかもしれないが、奉仕団体であるかどうか予算の使い方の面から見て疑問に思う点がございませぬ。しかし奉仕を考える団体であることは間違いないありません。バーナードショーに「ロータリーはどこへ行くと言ったら昼食を買いに行くだろう」と皮肉った笑い話があります。

同じ昼飯を食べながらでも、夜、酒を飲みながらでも、宴会をしながらでもそこに何らかのお互いの学び合いがあって、それが地域社会に大きく影響を及ぼすような力になっていけば、ロータリーは、私はそれでもいいと考えます。本来的にロータリーの社会奉仕というものは、職業奉仕。これが基本的姿勢であると思います。自分の職業を通じて奉仕をするという、個人単位に物事を考えていくということでもあります。何故個人なのか、ボランティア意識というものは、あくまでも、個人の精神にポイントをおいているわけですから、その個人の社会に奉仕する意欲、それをかきたたせて、お互いに刺激し合う、そのためにクラブをつくっているのだというふうに理解するのが、今一番間違いないロータリーの理解でないかと考えております。

国際ロータリーの規定審議会で新しい示唆が出ております事は、ポリオプラスの問題で、たくさんの子供たちの命が救われている実績の報告があります。それらが生きのびる食料をどうするのかという問題が出てまいります。今、世界中で5億の人間が飢餓状態にあるといわれています。小児病で子供を失わず、全部育っていったなら、この飢餓状態は益々増幅していくわけです。おそらくロータリーも飢餓状態を克服するためにと、お金を集めることが将来的命題なのではないかと感じております。しかし、それも個人の意志でボランティアの考え方、いわゆる職業奉仕の考え方で奉仕していくことがロータリーの本来の奉仕の基本であると思います。

来年度の国際ロータリーのテーマは「誠の幸福は人助けから」人間として本来の幸せというものは、第三者を交えた一つの幸せな世界をつくるという努力をすることから生まれてくるという考え方であると思います。社会性のない人間は本当の人間としての健全な姿勢ではない。今、自分の家庭と職場があるけれど、地域社会に対する配慮が非常に薄い時代です。子供は、学校と自宅はあるけれど、その地域に対してどのような在り方を示すことが健全な子供であるかを教えていない。家庭ということばの庭の意味は社会の空気を入れる広場であると申し上げたい。家はあるけれど庭がない。閉鎖家庭で育った子供に登校拒否の問題が生まれるのであります。

ある友人の家を訪問したとき、社会福祉のために寄付をしたいからと、箱を差し出され、いくらでもよいからお金を入れて下さい、と頼まれました。忘年間でも社会性のある忘年会をすることが人間の本当の姿勢であり、これから人間の美しさを考えていく人間の姿勢ではないかという事を、その友人から教えられました。皆様方は平素ご論議を重ねられ、どうかたちで協力をするかという事に心掛けておられることに心から敬意を表します。

皆様方も個人の姿勢で、三条市のボランティアがどういう動きをしているか、どう自分が関っていくことができるかということも、考えて頂ければ大変有難いものだと思います。

四つのテスト

— 言行はこれに照らしてから —

- | | |
|------------|------------------|
| I 真実かどうか | III 好意と友情を深めるか |
| II みんなに公平か | IV みんなのためになるかどうか |

3月24日例会：ロータリー情報委員会定期報告

3月31日例会：新入会員卓話木本達郎君